

めぐみイエス・キリスト教会

2021年4月4日(日)第I主日イースター礼拝
週報「通算第551号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌376「いかに汚れたる」	p. 604
【交読文】	No.6 詩篇第22篇	p. 883
【賛美Ⅱ】	新聖歌127「墓の中に」	p. 178
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル賛美No.11「ラザロ」	
【聖書朗読】	マルコの福音書16章1節～9節(新約p. 104)	
【礼拝説教】	《週の初めの日の早朝に》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 共観福音書における並行記事から

※ルカの福音書24章9節～12節「他の女たち」 (新約p.172)

24:9 そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。

24:10 それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちと共にいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、

24:11 この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。

24:12 しかしペテロは立ち上がり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。それで、この出来事に驚きながら自分のところに帰った。

※マタイの福音書28章8節～10節「弟子たちに知らせに」(新約p.64)

28:8 彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。

28:9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。

28:10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、私の兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこで私に会えます。」

●ポイント2. 主イエスの弟子たちへのメッセージとは？

※マタイの福音書26章30節～32節「ゲッセネマへの道で」(新約p.57)

26:30 そして、彼らは賛美の歌を歌ってからオリーブ山へ出かけた。

26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜私につまずきます。『私は羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。

26:32 しかし私は、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

●ポイント3. 主イエスの十一使徒への叱責とは？

※マルコの福音書16章14節「食卓の席において」(新約p.105)

16:14 その後イエスは、十一人が食卓に着いているところに現われ、彼らの不信仰と頑なな心をお責めになった。よみがえられたイエスを見た人たちの言うことを、彼らが信じなかったからである。

※ヘブル人への手紙13章8節「イエス・キリストは」(新約p.456)

13:8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。

◎先週のメッセージの概要【エルサレム入場】

《今日から受難週に入ります。ヨハネによりますと、『イエスは過越の祭りの6日前にベタニアに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。』と書き記されています。6日前とは、日曜日にあたります。主イエスは十二使徒たちと共にマルタとマリア姉妹とその弟ラザロの家にやって来たのです。夜が明け、おそらく午後になってから、主イエスの一行はベタニアを後にします。そして、近くの村ベテパゲから、ろばの子に乗ってエルサレムに入場されるのです。その時、祭りに来ていた群衆が、「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」と叫ぶ言葉と、なつめ椰子の枝を持って出迎えることは、詩篇118篇に預言されています。また、主イエスがろばの子に乗って入場されることは、ゼカリヤ書に、500年以上前に預言されています。

しかし、十二使徒たちには、この時その事が分かりませんでした。三日目に復活された主イエス様から、直接教えられて彼らは悟るのです。

さて、主イエスがエルサレムに来られたのは、この時が初めてではありません。それでは、なぜ今回は、ろばの子に乗って入場されたのでしょうか。それには、特別な意味があるからです。この時、主イエスは神の御子として、そしてユダヤ人の王として来られたからです。そしてそれは「ラザロのよみがえり」と大いに関係があるからです。使徒ヨハネは、主イエスが神の御子であることを示す「七つのしるし」を、その福音書に書き記しました。その最後の七番目の奇跡こそが「ラザロのよみがえり」なのです。

この大いなる奇跡を目の当たりに見て、主イエスをメシアとして信じたユダヤ人や、あるいはその事を伝え聞いた人々が、エルサレムの門の前において出迎えたのです。主は言われます。「私はよみがえりです。命です。私を信じる者は死んでも生きるのです」と。「シュロの日」に、主イエス様は、真の神様として、おおやけにエルサレムに入場されたのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、2021年4月11日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、4月7日(水)各家庭において行ないます。なお佐野盾一さんにより、YouTubeの教会の礼拝がアップしました。